

# 企業ニュース 花王

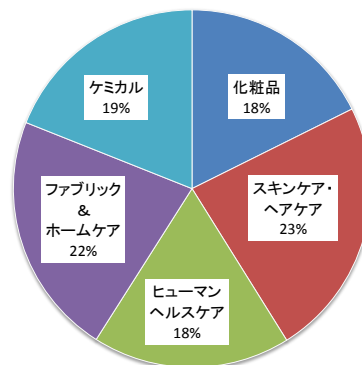
(東証1部：4452) <https://www.kao.com/jp/>

作成者：荒木晶子

## 新技術が中期経営計画の達成をけん引

1887年創業の日用品メーカー。2017～2020年度の中期経営計画「K20」では「利益ある成長」にこだわり、営業利益率15%の達成、過去最高益更新の継続を目指す。18.12期は、化粧品事業の構造改革に取り組み、順調に利益を積み上げた一方、日用品は市場競争の激化や原材料価格の上昇などにより苦戦した。2018年11月27日、新技術「ファインファイバー」の開発を発表した。極細繊維を肌に直接噴きつけることで、肌の表面に自然な積層型極薄膜を作る技術であり、化粧品における新たな提案や、治療への応用を視野に入れている。2019年度中に製品化を計画しているようで、中期経営計画の達成をけん引する材料となろう。

セグメント別売上高構成比 (18.12期・第3四半期累計)



(出所) 花王資料よりCAM作成

## 第3四半期は化粧品事業の収益性改善で増収増益

18.12期・第3四半期累計(1-9月)の連結業績は、売上高が1兆978億円、前年同期比2%増、営業利益が1,422億円、同3%増。化粧品事業の収益性改善が奏功した。ベビー用紙おむつ「メリーズ」は、中国における現地メーカーの攻勢や値下げ圧力などの影響で前年同期比減収となった。また、洗濯用洗剤や掃除用品などのファブリック&ホームケア事業は、マーケティングコストの効果が乏しかったことや原材料価格の上昇で、利益率が低下した。

18.12期の通期会社計画は、売上高が1兆5,400億円、前期比3%増、営業利益が2,150億円、同5%増だったが、第3四半期までの実績を踏まえて、営業利益は計画線で着地したと推定する。18.12期は化粧品事業の構造改革に成果がみられた。引き続き、同事業の業績貢献が期待できよう。また、19.12期には新技術を応用した商品の発売も計画されており、中期経営計画の達成に向けた取り組みは着実に進んでいると考えられる。

### [株価動向・投資判断]

19.12期は化粧品事業のさらなる成長や新技術の実用化による業績貢献が期待できよう。また、配当性向40%を目標とした積極的な株主還元の姿勢が、株価を下支えしよう。

<4452 花王 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
16.12	1,457,610 (▲1)	185,571 (11)	183,430 (10)	126,551 (20)	253.4	94.00
17.12	1,489,421 (2)	204,791 (10)	204,290 (11)	147,010 (16)	298.3	110.00
18.12 推	1,540,000 (3)	215,000 (5)	215,000 (5)	152,000 (3)	312.4	120.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/12/14)	8,117 円
年初来高値(高値日)	9,387 円(18/10/2)
同 安値(安値日)	7,020 円(18/10/25)
予想 P E R (18.12推)	26.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,636.7 円
P B R	4.96 倍
予想配当利回り	1.48 %
(1株当たり配当金120.00円)	
R O E (17.12)	19.8 %
発行済み株式数	48,870 万株